

いっそう元気！東近江

第1層協議体の名称が決定！！

11月24日（金）に第3回となる第1層協議体を開催しました。第3回では、これまで検討を重ねてきた、第1層協議体の名称が決まりました。これまでよりも一層、地域が元気になるような協議の場、そして、協議する中で生まれるアイデアや取り組み等を通して、さらに地域の支え合いがすすんでいくように…との想いを込めて、『地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江』に決定しました。



“やりがい”が生まれる場所

10月に五個荘清水鼻町にオープンした野菜果物直売所“まんまるや”の様子を映像で見たあと、平尾研木さんから開店に至った経緯や思いについてお話を伺いました。

買物に課題を抱える人にとっては、近所にコンビニのようなお店があり、地元で採れた野菜や果物が手に入れることができ、地域の元気な高齢者にとっては、野菜や果物を栽培・出荷・販売をすることで、やりがいにつながります。

これまで移動販売を通して聞いてきた、地域住民の暮らしの困りごとなどがきっかけとなり、この取り組みをやってみようと考えられたそうです。



■テーマ別懇談①「生協の活動から見えてくる、地域や住民の暮らしの困りごと」

- 個配を希望する人が増えてきており、会員同士のつながりも弱くなってきている。つながりをどのようにつくっていけばいいか…。
- 買物難民の問題を企業や販売業者だけが考えるのではなく、住民自身も自分たちができていることを考えていかなければいけない。
- 生協の支え合いサポートだけでは解決できないことを、地域の支え合い活動など、他の活動と連携して解決していけるとよい。
- 「何か困っている？」と聞いても「困っている」とは言いづらい。普段からつながりをつくっておくことで、困りごとを聞けるのではないか。



- 移動販売車が地域へ出向くと、そこに人が集まって買物をするため、集まる場のひとつになる。
- サロンの場に移動販売業者が来てくれたらいいなという声もある。現物を見て買いたい、選ぶことを楽しみたいという思いを持たれている人もいます。
- 健康を考えた食事の提案をしたいという思いから、キッチンカーを走らせられないか検討中。

■テーマ別懇談②「介護予防につながる余暇活動を支える移動（移送）について」

- 生活支援サポーターの活動で、余暇のサポートを目的に移送支援をしていたが、活動を続ける中で、通院などの支援が主になりつつある。サポーター活動で、えんがわ喫茶へ送迎している方の中には、そこへ行って、仲間とおしゃべりをすることを楽しみにしている人もいる。
- デイサービスの利用者の中には、昔からの顔なじみと出会える地域のサロンを楽しみにしている人もおられる。
- サロンに「行きたいけど行けない人」への支援として、事前を送迎の予定が分かれば施設の車を貸出することもできると思う。施設は車を出し、行政が車の維持費としてガソリン代を出すというようなくみが必要ではないか。
- 選挙の際に、行政で送迎支援をされた際、送迎だけでなく、投票所やベッドサイドで介助を希望する声もあった。
- 余暇活動には個性があり、支援範囲の線引きが難しい。
- 滋賀県は、生活をするのに車が不可欠な地域。日常生活に必要な、通院や買物送迎の確保なしに、余暇活動の支援は考えにくい。



■テーマ別懇談③「みんなが思う“自立支援”って何？」



- 今、できていることを続けられるように、自分がやりたいと思うことができるようにお手伝いをする、自己決定に関わる部分のお手伝いが、自立支援と言えるのではないかと。できなかったことができるようになるということだけではない。
- 認知症の方への関わり方で感じる事として、周囲の人が、認知症を患った本人が何も考えなくてもいいような関わり方になっているのではないかと。そのことで、本人のやる気を削いでいないか。本人が考え、行動したいことに寄り添うことが大事。

- 介護予防の観点から考える自立支援、自分の暮らして支援が必要になった場合の自立支援の両方が必要。
- 施設入所されている方が地域へ出向くことを受け入れられる地域の体制づくりも必要。それも、地域でできる自立支援のひとつ。
- 普段の暮らしの中で、何気なくしているお手伝いが、実は自立支援につながっていることを伝えていくことが大事。

